



# 空からゼオン

—日本ゼオン徳山工場 編—



山口県の周南コンビナート地域で操業を開始して50年。独自のブタジエン抽出蒸留技術であるGPB法を活用してブタジエンを製造し、それらを主原料とする低燃費タイヤ等の原料となる合成ゴムや、医療用、検査用手袋等の原料となる合成ゴムラテックス、プリンター用の重合法トナーの製造を行っています。

この11月にはスーパーグロス法カーボンナノチューブ製造工場が竣工。世界初の量産工場として、従来にない機能や特徴を持つ新機能性材料、次世代デバイス等への応用が期待される新材料を広く社会にお届けし、新産業の創出、ひいては日本経済の発展に貢献してまいります。



スーパーグロス法カーボンナノチューブ工場

## 日本ゼオン株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-2 (新丸の内センタービル)  
〒100-8246 電話03 (3216) 1772



# ZEON



## 日本ゼオン株式会社

証券コード：4205

## 株主のみなさまへ 第91期 中間報告書

2015年4月1日 ▶ 2015年9月30日



## 二年目を迎えた中期経営計画の課題を着実に進捗させ、2020年度の目標達成に向けた足取りを確かなものにしてまいります。



取締役会長 古河直純 取締役社長 田中公章

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、第91期中間期(2015年4月1日から2015年9月30日まで)の報告書をお届けいたします。

**Q** まずは上半期の実績を振り返っての解説をお願いいたします。通期業績見通しに対する利益面での進捗が順調のようですが、下半期の見通しはいかがでしょうか。

**A** 市況悪化の影響により減収となりましたが、利益面では前年同期を上回る結果となりました。外部環境は依然先行き不透明な状態が続いており、下半期も慎重に経営の舵取りをしてまいります。

2015年度上半期の売上高は前年同期比1%減の1,524億円となりましたが、経常利益は172億円(同10%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は109億円(同21%増)となりました。主として合成ゴム関連において市況悪化の影響を受けたため減収となりましたが、原料価格の下落、中小型向け光学フィルム生産量増量に伴う固定費単価の下落の影響等から、利益面では前年同期を上回る結果となっております。

商品別には、主力のエラストマー素材事業は売上高こそ前述の要因により前年同期比減となったものの、販売は総じて好調に推移しました。特に海外向け汎用ゴムの拡販が実り、販売数量を大幅に伸ばしております。成長分野である高機能材料事業においては、医療用途向け樹脂が国内顧客の在庫調整の影響を受けるなどした一方、スマートフォンの需要堅調を背景に中小型向け光学フィルムが販売数量を伸ばすなどした結果、増収増益を維持いたしました。

下半期の見通しに関してですが、合成ゴムの市況は依然として非常に厳しく、為替レート、原油価格、国産ナフサ価格等の外部環境も先行き不透明な状況にあります。中国をはじめとするアジア新興国などの海外景気の動向も楽観視できる状態にはなく、下半期は上半期以上の慎重な経営の舵取りが必要とされると考えており、通期業績見通しは据え置きとさせていただきます。

連結財務ハイライト	
売上高	1,524億円 前年同期比 0.6%減
経常利益	172億円 前年同期比 10.3%増
純利益	109億円 前年同期比 21.3%増

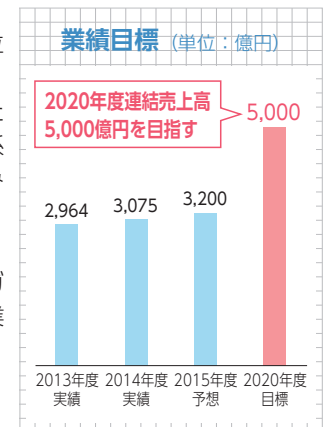
**Q** 二年目を迎えた中期経営計画『SZ-20 Phase II』で掲げられた課題の進捗はいかがでしょうか。

**A** シンガポール新工場の第二系列建設工事は順調に進捗、氷見の光学フィルム工場はさらなる能力増強を決定しました。インド事業統括会社もスタートし、拡大する市場における事業拡大を図ります。

エラストマー素材事業の構造改革の一環でありますシンガポールの新工場ですが、S-SBR(溶液重合法スチレンブタジエンゴム)のプラントが昨年4月に竣工し、主力4グレードの量産に入っております。この第一系列に続く第二系列の商業生産をいよいよ来年4月にスタートさせるということで、その建設工事が目下順調に進展しております。年々拡大する低燃費タイヤ向け合成ゴム市場においてグローバルに存在感を示せるプラントに成長するものと期待をしています。

高機能材料事業に関しましては、富山県氷見市の光学フィルム工場における液晶テレビ用位相差フィルム生産設備について、本年2月に量産を開始した第五系列の稼働率が順調に上がり、2016年には全系列がフル稼働になる見込みであること、かつ液晶テレビ市場が今後も安定した成長が見込まれる市場であることから、第六系列目となる能力増強を決定いたしました。第六系列稼働後の同工場の生産能力は現行より2,400万m<sup>2</sup>/年増え、合計11,900万m<sup>2</sup>/年となる見込みであり、2017年1月の量産開始を目指します。

また、拡大を続けるインド市場における顧客に密着した事業戦略の構築と実践が重要との判断から、インドにおけるゼオングループの事業全般を取扱うZeon India Private Limitedをハリヤナ州グルガオンに設立し、10月1日から営業を開始いたしました。まずは自動車用途向けをターゲットにゴム事業からはじめ、その後、化成品・高機能樹脂事業などその他の製品群へ事業対象を拡大していく予定です。



**Q** 現在の基本的な研究開発戦略についてご説明いただけますか。

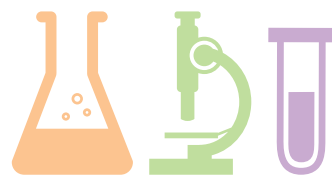
**A** 経営と研究開発が一体となって、上市スピードを常に意識しながら研究開発を進めます。

2020年度の連結売上高目標である5,000億円の達成には、既存製品の拡販はもちろんのこと、経営戦略に沿った形で新たな製品や独自技術を次々と、タイムリーに市場に投入していかねばなりません。そのため、未来への投資である研究開発費については毎年安定的に一定額を確保することとし、新規事業の創出に努めてまいります。

また、私たちは、毎月開催している「研究ヒアリング」をその取り組みの一つとして大変重要視しています。そこでは研究員に、今経営が求めていること、今取り組んでもらっている研究テーマの経営戦略上の位置づけなどをできるだけわかりやすく伝えていきます。特に上市に近いテーマについては、経営陣と研究員が新製品開発の過程に設定してあるイベントの進捗状況を共有することで、着実な上市の実現を図ります。

加えて、新しい事業の種を生み出すために、個々の研究員の創発意欲を刺激し、新規テーマの提案が次々と出てくる風土づくりにも取り組んでいます。本誌特集ではそのような環境の下で活き活きと、熱意をもって課題に取り組んでくれている研究員の姿をご紹介しますので、ぜひご覧ください。

# 人のまねをしない ——だから、人がまねの できないものができる



## 研究開発の 基本理念

多くの製品分野でトップシェアを獲得しているゼオングループ。その源は独創的かつ革新的な技術力にあります。経営と研究開発が一体となって目指しているもの、それは「化学の力で『理想の未来』を手もとに引き寄せ、『今日』にすること」です。

## 「誰もやっていない新しいことを やっている」という自負

### エラストマー研究所

#### 屋台骨事業を支える研究開発

売上高および営業利益の約6割を占めるエラストマー素材事業。合成ゴムと合成ラテックスの研究開発を担うエラストマー研究所は、ゼオンの「屋台骨事業」の中核ともいえる存在です。

「合成ゴムのグローバル・リードラナーたる地位確立」を目指すゼオンに対してのおお客様の期待や要求水準は高く、今までの研究の延長線上には答えの見つからない課題がほとんどです。常に新しい仕事、誰もやっていない仕事であることにやりがいを感じる研究員が、開発の現場を支えています。

#### お客様にとっての価値を次々と提案する

エンジン回りの自動車部品に用いられるゼオンの特殊合成ゴム。その中心ブランドであるZetpol®の新しいシリーズは、より高耐熱・高耐圧が求められる新しいエンジンのガスケットなどに採用されました。お客様の高い要求水準に他社の追随を許さない技術力で応え、結実した好例といえましょう。

「2020年のありたい姿」実現に向けて大きな果実を生む可能性のある「新しい種」も順調に育てており、お客様にとっての価値を次々と提案できるサプライヤーたるべく、日々邁進しております。



ZEON's  
Point

多くの研究員が口にするのは「若い研究員の意見も吸い上げて、その裁量で研究をさせてくれる」という風土。「自分自身が伸びていることを実感できる」という意見も聞かれます。



特殊合成ゴム「Zetpol®」

## 「最終製品の中で機能する樹脂」を イメージするところから始まる

### 高機能樹脂研究所

#### 付加価値の高い樹脂にこだわる

高機能樹脂研究所では、高機能材料事業部門で取り扱う製品のうちシクロオレフィンポリマーという樹脂の研究開発を中心に行っています。ガラスと比べた不純物の少なさ、軽さ、強度、低吸水性などの優れた特性が広く認められており、位相差フィルムの原料として用いられるなどの光学製品用途のみならず、薬瓶やシリンジといった医薬品包装材料にも用途展開されています。

その高い付加価値に対するお客様からの信頼、また、より高い付加価値を求めお客様「こだわり」に応えるため、当社研究員もまた樹脂の持つ可能性に強く「こだわり」、諸課題に取り組んでおります。

#### 光学用樹脂研究開発の現場

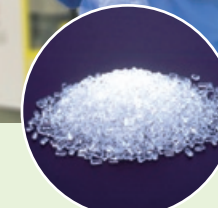
光学製品用途に関していえば、従来スマートフォン用カメラレンズやレーザープリンター内のレンズ、CD・DVDの読み取り用レンズ等の原料として用いられてきた樹脂が、近年、最終製品内でガラスに取って替わる範囲を拡大させつつあります。デジタル一眼レフカメラのレンズや、自動車の車外モニター用のレンズなどにも樹脂が用いられるようになってきました。

このように高度化するお客様のニーズに対して、課題をひとつずつ解決していく作業そのものが、高機能樹脂研究所の研究開発となっています。



ZEON's  
Point

「製品を手にしたとき、ひとつの研究が形になったことを実感する」と、手掛けた樹脂が組み込まれた製品を購入する研究員もいるほど。研究への熱意がみなぎる環境です。



シクロオレフィンポリマー  
「ZEONEX®」



400名あまりの研究員を擁する総合開発センターは、新製品の開発や既存製品の改良にとどまらず、新材料の探索、新しい分析・シミュレーション手法の開発・活用、生産プロセス・設備の新規開発・改良なども担っています。

## 日本ゼオン総合開発センター



**会社基盤を支える事業**

**エラストマー素材事業部門**

合成ゴム／合成ラテックス／化成品

売上高構成比 **60.7%**

売上高

**931億27百万円**

**0.8%** (前年同期比)

売上高の推移

(単位：百万円)

年度	中間期	通期
2012年度	85,296	164,028
2013年度	92,167	184,351
2014年度	93,854	188,829
2015年度	93,127	-


**概要**

**合成ゴム**  
海外向けの拡販活動が進んだことにより販売数量を伸ばした一方で、市況価格悪化の影響を受けたため、全体の売上高は前年同期を下回りましたが、営業利益は前年同期を上回りました。

**合成ラテックス**  
国内製紙用途での需要低迷による影響があったものの、海外手袋用途での旺盛な需要および円安を背景に販売が好調に推移したことから、全体の売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。

**化成品**  
タイ子会社を含めた海外市場での販売が旺盛な需要を背景として好調に推移し、国内需要も堅調であったことから販売数量を伸ばした一方で、市況価格悪化の影響を受けたため、全体の売上高は前年同期を下回りましたが、営業利益は前年同期を上回りました。

●当事業部門全体の売上高は931億27百万円(前年同期比0.8%減)、営業利益は107億86百万円(同20.8%増)となりました。



製品用途例

**新規展開を中心とする事業**

**高機能材料事業部門**

高機能樹脂・部材／情報材料／化学品／医療器材

売上高構成比 **23.5%**

売上高

**360億45百万円**

**1.0%** (前年同期比)

売上高の推移

(単位：百万円)


年度	中間期	通期
2012年度	23,019	51,411
2013年度	33,004	64,154
2014年度	35,689	70,875
2015年度	36,045	-

**高機能樹脂・部材**  
高機能樹脂関連では、医療用途の輸出版売が好調であった一方で、国内顧客の在庫調整等の影響を受けました。高機能部材関連では、テレビ向け光学フィルムの販売が堅調に推移したことに加え、中小型向け光学フィルムの販売が好調でした。この結果、高機能樹脂および部材全体では、売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。

**情報材料**  
電池材料の売上高は前年同期を上回りましたが、電子材料およびトナーの売上高は前年同期を下回りました。この結果、全体の売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。

**化学品**  
特殊化学品、合成香料ともに競争激化の影響等により販売が振るわず、全体の売上高は前年同期を下回りましたが、営業利益は前年同期を上回りました。

●当事業部門全体の売上高は360億45百万円(前年同期比1.0%増)、営業利益は52億80百万円(同16.2%増)となりました。



製品用途例

**その他の事業部門**

RIM 配合液・成形品／塗料ほか

売上高構成比 **15.8%**

売上高

**243億15百万円**


**2.8%** (前年同期比)

売上高の推移

(単位：百万円)

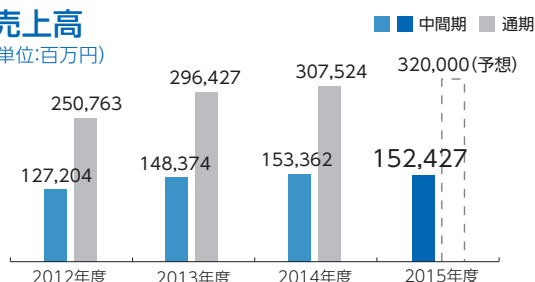
年度	中間期	通期
2012年度	19,802	37,508
2013年度	24,632	50,798
2014年度	25,020	50,049
2015年度	24,315	-

●子会社の商事部門等の売上高が前年同期を上回りましたが、塗料事業等の売上高は前年同期を下回りました。この結果、全体の売上高は243億15百万円(前年同期比2.8%減)、営業利益は11億6百万円(同6.6%増)となりました。



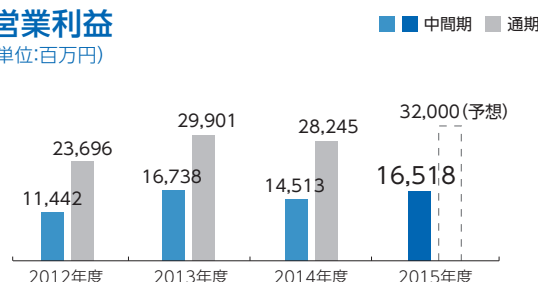
売上高

(単位:百万円)



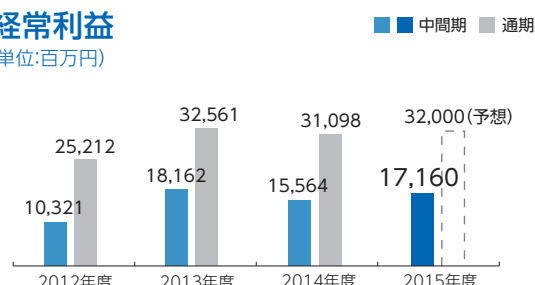
営業利益

(単位:百万円)



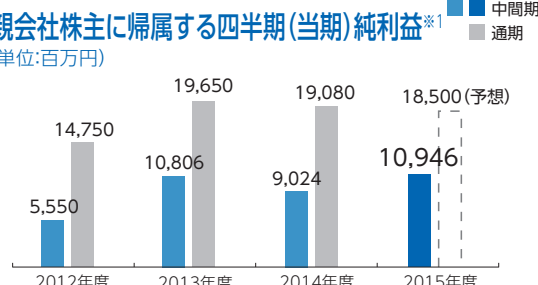
経常利益

(単位:百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益※1

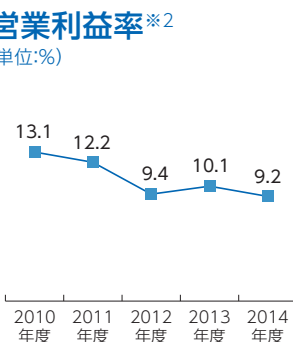
(単位:百万円)



POINT ・販売は概ね堅調に推移しましたが、主として合成ゴム関連において市況価格悪化の影響を受けたため、売上高は減少したものの営業利益は増加しました。  
 ・固定資産処分損、減損損失の減少などにより特別損益が改善し、親会社株主に帰属する四半期純利益は増加しました。

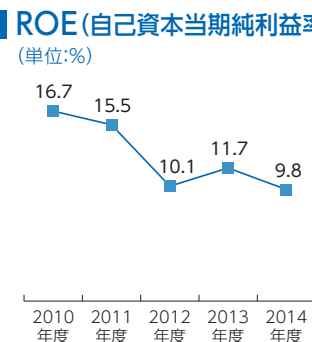
営業利益率※2

(単位:%)



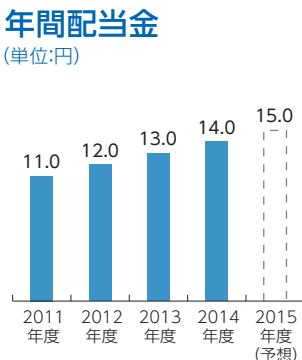
ROE(自己資本当期純利益率)※2

(単位:%)



年間配当金

(単位:円)



※1.「企業結合に関する会計基準」等を採用し、当期より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としており、前連結会計年度までの当期純利益についても科目名を統一しております。

※2.営業利益率およびROE(自己資本当期純利益率)につきましては、各年度の通期実績値の推移をお示しております。

連結貸借対照表 (単位:百万円)

前連結会計年度末 (2015年3月31日)		当第2四半期連結会計期間末 (2015年9月30日)	
資産合計	399,512	資産合計	407,485
流動資産	176,609	流動資産	190,743
固定資産	222,903	固定資産	216,742

POINT 投資有価証券などが減少したものの、現金及び預金、たな卸資産などが増加したことにより、資産合計は前年度末に比べて増加しました。

前連結会計年度末 (2015年3月31日)		当第2四半期連結会計期間末 (2015年9月30日)	
負債・純資産合計	399,512	負債・純資産合計	407,485
流動負債	119,174	流動負債	128,585
固定負債	64,707	固定負債	59,668
純資産	215,631	純資産	219,232

POINT 支払手形及び買掛金、有利子負債などが増加したことにより、負債合計は前年度末に比べて増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

前第2四半期連結累計期間 2014年4月1日～2014年9月30日

現金及び現金同等物の期首残高	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物に係る換算差額	現金及び現金同等物の四半期末残高
8,117	▲14,154	▲9,303	▲3,575	▲113	9,279

当第2四半期連結累計期間 2015年4月1日～2015年9月30日

現金及び現金同等物の期首残高	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物に係る換算差額	現金及び現金同等物の四半期末残高
3,491	▲25,028	▲16,597	▲1,353	▲43	13,233

POINT ・税金等調整前四半期純利益による資金の増加などにより、営業活動で得られた資金は250億28百万円となりました。  
 ・主として有形固定資産の取得に資金を振り向けた結果、投資活動で使用した資金は165億97百万円となりました。  
 ・配当金の支払を行った一方で、借入金などによる資金調達を行った結果、財務活動で調達した資金は13億53百万円となりました。



## 【会社の概要】(2015年9月30日現在)

商号 日本ゼオン株式会社  
(ZEON CORPORATION)  
設立 1950年4月12日  
資本金 242億1千1百万円  
本社 〒100-8246  
東京都千代田区丸の内1-6-2  
新丸の内センタービル  
電話 03(3216)1772  
従業員 3,225名(連結)

## 【役員】(2015年9月30日現在)

取締役会長 古河 直純	監査役 藤田 譲
取締役社長 田中 公章	監査役 郡 昭夫
取締役 大島 正義(★)	監査役 西島 信竹
取締役 武上 博(☆)	常務執行役員 今井 廣史
取締役 三平 能之(☆)	執行役員 藤澤 浩
取締役 平川 宏之(☆)	執行役員 柳田 昇
取締役 西嶋 徹(☆)	執行役員 佐屋 利明
取締役 伊藤 敬(*)	執行役員 井上 俊弘
取締役 古谷 岳夫(*)	執行役員 小瀬 智之
取締役 伊藤 晴夫	執行役員 林 佐知夫
取締役 北畑 隆生	執行役員 豊嶋 哲也
取締役 南雲 忠信	
常勤監査役 南 忠幸	
常勤監査役 長谷川 純	

(★)の取締役は専務執行役員を兼務しております。  
(☆)の取締役は常務執行役員を兼務しております。  
(\*)の取締役は執行役員を兼務しております。

## 【株式の状況】(2015年9月30日現在)

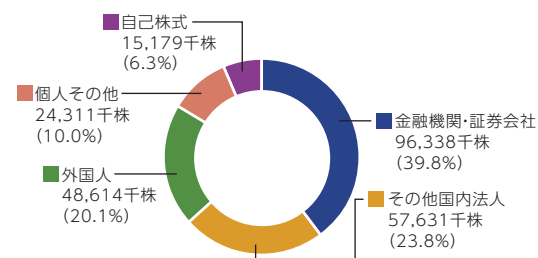
発行可能株式総数 800,000,000株  
発行済株式の総数 242,075,556株  
株主数 9,586名(前年度末比221名減)

### 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
横浜ゴム株式会社	22,682	10.00
株式会社みずほ銀行	11,310	4.98
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	10,697	4.71
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	8,687	3.83
朝日生命保険相互会社	7,679	3.38
全国共済農業協同組合連合会	7,450	3.28
旭化成ケミカルズ株式会社	6,438	2.84
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT	5,848	2.58
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9)	4,798	2.11
農林中央金庫	4,000	1.76

(注) 1.持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。  
2.当社は自己株式15,179千株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

### 所有者別分布状況



## 【ゼオングループの主要拠点】

### 日本国内拠点

- 日本ゼオン株式会社
  - 本社
  - 総合開発センター
  - 高岡工場
  - 川崎工場
  - ゼオン化成株式会社
  - 東京材料株式会社
  - ゼオンノース株式会社
  - ゼオン山口株式会社
  - ゼオンエフアンドビー株式会社
  - ゼオンメディカル株式会社
  - ゼオンポリミクス株式会社
  - RIMTEC株式会社
  - 株式会社トウペ
  - ゼオンテクノロジー株式会社
  - ゼオンケミカルズ米沢株式会社
  - 茨城ゼオン化成株式会社
  - 岡山ブタジエン株式会社
  - ジスインフォテクノ株式会社
- 徳山工場
- 水島工場
- 大阪事務所
- 名古屋事務所

### グローバル拠点

#### アジア・オセアニア

- 瑞翁(上海)管理有限公司
- 瑞翁貿易(上海)有限公司
- 瑞翁化工(上海)有限公司
- 瑞翁化工(広州)有限公司
- 瑞竹化工(上海)有限公司
- 蘇州瑞紅電子化学品有限公司
- 瑞翁化成塑料(常熟)有限公司
- Zeon Korea Co., Ltd.
- 済新株式会社
- 泉瑞股分有限公司
- Zeon Asia Pte Ltd
- Zeon Asia Malaysia Sdn. Bhd.
- Zeon Chemicals Singapore Pte. Ltd
- Zeon Chemicals (Thailand) Co., Ltd.
- Zeon Advanced Polymix Co., Ltd.
- Zeon Manufacturing Vietnam Co., Ltd.
- Zeon India Private Limited

#### 欧州

- Zeon Chemicals Europe Ltd.
- Zeon Europe GmbH
  - Zeon Europe GmbH - Branch in France
  - Zeon Europe GmbH - Branch in Spain
  - Zeon Europe GmbH - Branch in Italy
- Telene S.A.S.

#### 米州

- Zeon Chemicals L.P.
  - Zeon Chemicals L.P. West Coast Office
  - Zeon Chemicals L.P. R&D Center
  - Zeon Chemicals L.P. Kentucky Plant
  - Zeon Chemicals L.P. Mississippi Plant
  - Zeon Chemicals L.P. Texas Plant
- Zeon do Brasil Ltda

## 【株主メモ】

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 配当金受領株主確定日 3月31日および中間配当を行うときは9月30日  
 基準日 毎年3月31日(その他臨時に必要なときは、あらかじめ公告します。)  
 公告方法 電子公告 <http://www.zeon.co.jp/> (ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。)  
 株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 同連絡先 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-8507)  
 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)  
 特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 同連絡先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)  
 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

### 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人であるみずほ信託銀行株式会社にお申出ください。